

学校名	新座市立野寺小学校
実施日	令和 2年 1月 25日

<記入の仕方> ○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「授業改善(独自)」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の理念に基づいた学習・指導方法を積極的に取り入れ、適切に行っている。	B	文科省の方の講演や「主体的・対話的・深い学び」の理念に基づいた研究授業や研修内容など、勉強の機会をとることができ、計画的に研究授業を行い、共通理解、共通指導を心掛けてきた。一方、指導法や児童への良い関わり方について深められるとよい。	A	研究授業を核とした校内研修を積極的に行っているが、そこから得られた成果が日々の授業改善に繋がるようにする。一定の学力向上の成果を得ている。定期的なミニ研修会の実施を試みたい。
2	学校は、指導形態や学習方法を工夫し、個に応じた指導を適切に行っている。	B	習熟度別、少人数指導など、算数の学習については積極的に取り組んできている。特別支援教育支援員の計画的な配置や共通理解も校内支援委員会、サポート推進会議、特別支援コーディネーターの授業参観、教育相談室のスクールカウンセラーの積極的活用を図っている。	A	個に応じた指導の充実が図れてきている。特に、算数科においては、学力が2極化しており、個に応じた指導が急務である。習熟度別学習の成果を広げていきたい。記録を残すことが肝要である。
3	学校は、ICT機器を効果的に活用した授業を行っている。	B	大型テレビやPCなどは活用が図られている。機器活用に関する研修会なども行い、ICT活用のスキルアップ向上のための研修会を行う。コンピュータ業務補助員のさらなる活用を図りたい。	B	思考の道具として効果的な使用が臨まれる。平常授業でどの程度活用しているか数値化してみるのも大切である。教師による偏りがなく等しい判断材料としたい。新しいデジタル教科書の要望と活用を図りたい。ICT予算の充実を期待したい。

評価項目「組織運営」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	B	部会による事前の協議のうえで提案を行い進んでいくことができた。「野寺っ子商店街」の縦割り活動を新たに実施することができたのも良かった。分掌については見直しを図る時期に来ていると考える。	B	長期休業中の活用を図りたい。平常は、できるだけ会議の回数を減らし、授業準備にあて、会議は、長期休業中にまとめて行うなどの工夫が必要である。分掌についての見直しを図りたい。1年間の会議内容の見える化。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	B	学校生活アンケートを年3回実施しており、短いスパンでのcheckを大切に、検証改善サイクルに基づく学校経営に取り組んでいる。次年度から新学習指導要領全面実施となるため、日課表、行事についても大きく見直しを図っている。	A	PDCAサイクルに基づく学校経営が見える化することが大事である。子どもにとって「授業が楽しい」と思える授業づくりを継続して取り組んでいきたい。日課表の改善成果を明確にする。音楽部の取り組みを参考に。
6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう。危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	危機管理マニュアルの見直しを図り、教職員同士での対応に関する細かい確認などが少しずつ行っていた。地震や火災の避難訓練だけでなく、不審者対応訓練を全校で取り組んでいる。	A	マニュアルの共通理解とさらなる徹底をお願いしたい。事故やトラブルに対して学校は誠実に迅速に対応している。日々の成果を継続していきたい。HP上にある「いじめの防止等基本的な方針」についての理解の共有化を図りたい。

評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	B	学習規律の統一、ノートの取り方等の共通ルールを定め、全体で取り組んでいこうという意識が図られている。「めあて」と「振り返り」についての提示も確認や徹底が少しずつできてきている。	A	児童が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。様々な場面(給食指導や清掃指導など)での取り組みが一貫してきている。継続したい。

8	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	B	課題研究「考える力を身につけ、できる・わかる喜びを感じ、生活や学習に生かすことのできる児童の育成」をテーマにして、すべての教科等で実施している。授業の話し合い(まとめるタイム・広げるタイム)を設け、「主体的・対話的で深い学び」の授業実践に挑戦している。	A	課題研究「考える力を身につけ、できる・わかる喜びを感じ、生活や学習に生かすことのできる児童の育成」をテーマにし、すべての教科等で実施している。主体的・対話的で深い学びに視点をあてている。特に話し合いの時間を設けている。
9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	学期末に定着度を図るテストを全学級で実施することができた。学習指導要領や県の編成要領などは確認する機会が多いが、市の指導の手引きについてはさらなる活用が必要である。	A	協働による教材研究を推進したい。学期末の定着度テストの検討を進めたい。
10	学校は、英語(英会話)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。	B	英語専科が2学期途中で産休に入り、中学校加配教員の配置が2学期後半になり、担任が主導で英会話の授業を進めることが多かったが、子どもたちも、英語自体を楽しんでおり、高学年の授業時数増加や書くことなどをさらに取り入れることへの対応がよくできている。	B	英語(英会話)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。高学年の意欲を大切にしたい。小中の連携を考えたい。予算をかけて人材を確保したい。(市への要望)

評価項目「豊かな心の育成」

No.2

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導し、成果をあげている。	B	教師からの日頃のあいさつや声掛けを大切にしている。ソーシャルスキルトレーニングの研修も今年度は取り組み、教員が学級で指導できるよう配慮した。学校外においても挨拶ができるよう指導していく。言葉遣いは、保護者への啓発も改善には必要である。	B	あいさつした後の「一声かけ」を継続したい。教師の正しい言葉遣いは、徹底したい。授業参観等での挨拶は、よくなってきている。登下校の挨拶も向上している。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	B	学校生活アンケート等を活用し、いじめの早期発見、速やかな対応を第一とし、常にアンテナを高くしている。子どもの話をよく聞いて対応しようと努力している。お互いの良さや努力を認め合うことについては引き続き指導が必要である。	B	学校独自の年間4回の学校生活アンケート等を活用し、いじめの早期発見、速やかな対応を第一とし、常にアンテナを高くしている。粘り強い組織的な対応を望みたい。「いじめの防止等た基本的な方針」について、保護者・地域への理解と協力を得たい。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	B	教師自らの率先垂範が第一である。共通理解が図られているが、一部共通指導ができていない部分もあるので改善に努める。あいさつ運動には多くの教員が参加しており、子どもたちに良い姿を示している。	B	教師による温度差の解消に向けて努力したい。4月当初だけでなく、学校ごとの共通認識・共通行動の確認を図りたい。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	B	朝運動の取組は大変すばらしく、運動量の確保や体を動かすことへの抵抗感を無くす良い機会である。また学年別に違う取り組みも子どもたちの実態によく合っている。休み時間の外遊びも奨励している。	A	児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。朝運動の成果が出ている。共有したい。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	B	パクパク賞など児童が給食を残さないようにする機会を設けている。各学年において給食に関する授業や栄養士をゲストティーチャーとした授業などができるとよい。	A	外部講師の活用など、工夫した取組を考えたい。ゲストティーチャーの実現を。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	B	学校運営協議会を定期的に関き、教員とも懇談会を開くなど、より現場の声を聞いていただく機会が増えた。保護者との面談に積極的に管理職が入り、時には教育相談室のスクールカウンセラーも入ってもらい、より良い児童への支援の仕方を考えることができた。	A	学校全体が、PTA活動や地域活動に関心をもち、保護者・地域と連携協力している。学校運営協議会の役割を共有したい。学校開放委員会との連携も図りたい。

17	<p>学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。</p>	A	<p>学校だより、学年だよりなどにおいて、情報発信を心がけた。特に毎日の学校の様子や校外学習などをホームページで即時紹介していることが高評価につながっている。教員の日頃の努力も伝わるように努めている。</p>	A	<p>学校便りや、ホームページなど常に学校の情報を提供している。情報を共有することで、学校とのつながりをさらに深められている。</p>
18	<p>学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。</p>	B	<p>地域の声を幅広く聴き、生かすことに努めてきた。あいさつ運動、シルバーパトロール、図書や花ボランティアの活動を定期的に行っている。特に学校農園や学校田んぼの充実には、多くの支援をいただき、子供たちの体験活動が充実している。PTAの方々も大変積極的に学校応援団組織のさらなる充実にも取り組んでくれている。</p>	A	<p>学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。お互い感謝の心を大切にしている。</p>